

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1990100289		
法人名	社会福祉法人 さくら会		
事業所名	風林荘グループホーム		
所在地	甲府市宮原町1191		
自己評価作成日	平成23年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年1月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

甲府市南部の田畑が広がる郊外的な環境の中で、鎌田川の土手を散策したり、風林荘の畑で野菜・サツマイモ・焼き芋・花・百苺柿・富有柿・ころ柿づくりを行い、自家用に使ったりして楽しむなど地域の特色を加味したグループホームの運営に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広い敷地内に入ると建物沿いに大きいミカンがたわわに実って暖かい季節を感じさせる。近所の高齢者が施設の外周りの落葉を掃いて綺麗にしている。グループホームは5つの高齢者福祉施設の事業所の中の1つで、連携を取って利用者は生活している。館内は絵や花が至る所に飾られてショートステイのホールと続いている為、共用のホールが広く感じる。又利用者のレベルに合った風呂が利用できる環境設備が整っている。入居する利用者は入居時特別養護老人ホームの入所を申請をしている。近所の大鎌田保育園との交流が多い。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 風林荘グループホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	風林荘の運営方針「さわやかな豊かな生活を目指し適切な支援」に努めている。グループホームの具体的な目標の自立支援を念頭に適切な支援に努めている。	グループホーム独自として家庭に近い生活への支援に心がけている。地域密着型の意義をふまえた理念は特に明言はしていないが職員間の話し合いの中で共有している。地域の人との触れ合いを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	宮原町上組の一員として日常的に交流している。また東側の近所のお年寄りも入口付近の清掃をしてくれている。散歩時なども近所の方々が気軽に声をかけてくれている。	自治会に加入している。回覧はないが法人事務所から連絡があるので地域の運動会やグラウンドゴルフ大会等に参加している。又近くの保育園の園児と日常的に交流を図りクリスマス会やもちつき等で楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護施設・事業所の理解と健康づくりを兼ねて大里地区体協グラウンドゴルフ部の協力を得て、風林荘大里地区グラウンドゴルフ大会を実施している。第1回(平成22年1月23日)・第2回(平成22年12月1日)・第3回(平成23年5月25日)・第4回(平成23年11月14日)開催した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成22年10月22日に第1回、平成23年7月20日に第2回、平成23年11月1日に第3回運営推進会議を開催し、運営状況を説明、理解を得ると共に出席者の方々と意見交換を行った。又グループホームの見学、昼食の試食も行った。今後は1月と3月を予定している。	会議では運営状況を報告して参加メンバーからの意見要望を受けている。家族から「遠くへの車での外出は体力的に無理な様だ」という意見が出され検討し近隣での外出を実施した。又ノロウイルス等について研修をしているか等の説明を求められた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用状況を毎月報告している。	FAXで利用状況等を報告している。困った時は施設ケアマネジャーに相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現利用者の中には、身体拘束の必要性はない。身体拘束ゼロを維持に努めている。	身体拘束をしない事は契約時家族に説明をしている。法人内に身体拘束解消委員会があり職員一名が参加して会議の報告を連絡ノートに記入して職員間で徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に虐待行為はないが、自立支援が高じ、虐待に通じないように留意も必要と考えている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現利用者には、その必要性はないが、成年後見制度を念頭においている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用可能な施設の利用料等説明する中で、また、空きがないかどうか確認する中で契約へと進めている。改定する場合は、もちろん契約の変更を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を中心に意見要望を把握し、検討・実施・不可の了解を得ている。	個人的な希望などは面会時に聴いて対応をしている。計算ドリルを毎日させて欲しい、筋力低下予防に歩行訓練をして欲しい、毎日着替をさせて欲しい等家族からの要望があった。利用者から「下半身が寒い」との訴えがあり膝かけをホールに用意した。手づくりのおやつがあり、週二回は手作りのおやつを作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでもそれぞれの部署でまとめ、運営会議へ提案できる。また個人的な意見要望は、年度末の個人面接の際か、その都度施設長と協議している。	管理者は日頃から職員の意見を聞きだすようにしている。早出業務内容の検討の提案が出され管理者は個々の職員から意見を聞いて変更をした。おやつ当番の人数変更の提案など職員側からも意見が出しやすい状況をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善対策により給与水準は改善されたが、その定着を見ながら給与規程の見直しを進め、就業規則の整備を図っていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修参加の呼びかけや、事業所外の研修参加に研修担当を中心に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養護老人ホーム・居宅介護支援事業所との利用者の調整を含め、相互訪問をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護に当たって信頼関係が一番大切なことであり、介護計画の作成時に利用者の状態把握に努め、家族の意見を聞き、それを共有し、介護に当たっては介護計画を基に誠意を持って接し、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護に当たって信頼関係が一番大切なことであり、介護計画の作成時に利用者の状態把握に努め、家族の意見を聞き、それを共有し、介護に当たっては介護計画を基に誠意を持って接し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画に基づき必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や食事の片付け、体操、散歩、ドライブ等行い、家族のような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	上記のような関係を築き、家族とともに支え不安を除いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、家族と電話や手紙のやりとりの取り次ぎを行っている。	昔から利用している美容室で送迎してもらって髪を染めている利用者がいる。友人の面会があって友達の家に行きたいという利用者の企画を検討して継続的な交流が出来るよう働きかけている。又携帯電話を持って娘と連絡を取っている利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや会話を通し、より良い関係を築ける支援を行っている。また、関係に不都合を生じる場合は孤立しないような対応に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの支援により得た情報や状況を提供し、今後につなげる為の相談・支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活全般において、本人の希望を重視している。必要があればこれまでの生活習慣など、家族の意見を仰いでいる。	歩きたい、富士山を見たい、歌を唄いたい、毎日お風呂に入りたい等一人ひとりの利用者の希望など、日々のかかわりの中で声を掛け、意向の把握に努めている。意志疎通が困難な利用者には、家族から情報を得て対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護計画作成に当たって利用者の状態把握に努め、介護者と共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の変化を見落とさぬよう、一人ひとりの状況の確認を常に行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、適切な介護計画となるように努めている。	フロア会議に合わせてサービス担当者会議を行い、計画を作成している。日々の生活の中で気がついた職員が経過記録に記入し、職員と意見交換やモニタリングをプランの見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートやフロア会議により、職員間の統一した意識と情報の共有に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不安が高じた時など、天気がよい場合は、散歩やドライブなども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	野菜を作ったり、芋掘りをしたり、ころ柿やお正月のお供えを作ったり、地域のボランティアによる毎月の手芸教室、鎌田川の土手や田畑の散歩など地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医(内科・胃腸科)による健康管理、眼科・皮膚科・歯科医の往診による診療を基本に健康維持に努め、救急の場合は協力病院である武川病院や近隣の救急病院を利用するなど適切に対応している。	事業所の委託医の他、利用前からの専門医に家族が付き添って受診している利用者もいる。緊急の場合は看護婦が家族に連絡して付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	風林荘診療所の支援を受け、適切な看護が行われるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換は継続看護連絡票(看護サマリー)によって行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開所2年目であり、看取りの体制をとっていないが本施設(特別養護老人ホーム、ショートステイ)で看取りを実施しているので看取りの研修に参加し、重度化の状況を見ながら看取りの体制を整えている。	看取り体制はないが、重度化したら法人の特別養護老人ホームに移ることを家族が承知している。全員が特別養護老人ホームに入所申請をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修参加や看護師との連携により緊急対応に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の場合の避難訓練に努めるとともに、震災のときの安全な過ごし方等、防災訓練を年2回実施している。地域との協力体制は、自治会へ応援依頼するとともに、高齢者の避難場所として甲府市と協定を結んでいる。	年度内に昼と夜の訓練を予定してのマニュアルを作成中である。本館とグループホームの渡り廊下は防火扉になっている。2階からの避難スロープやスプリングクレーが設置されている。	事業所が施設の2階にあるために防火扉迄の避難となっている。グループホーム独自のマニュアルを作成して、避難経路を確認し計画・実施して、課題を捉えて再度計画をたて、一人ひとりの職員が夜間スムーズに誘導避難の対応が出来るように期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を理解したうえで、その人に合わせた対応に努めている。	居室内でポータブルトイレを使っている利用者については、扉が開けてあるので使用時は閉めてプライバシーに配慮している。言葉づかいは丁寧すぎず利用者一人ひとりに合わせた声かけが心にかけている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えを押しつけないよう、各自の思いを自由に表現できる環境作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその人に合わせた生活が出来るよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪希望に対応したり、季節に合わせた洋服や化粧のアドバイスも行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とともに食事の片付けやおやつ作りを行っている。	施設から一括して調理してワゴン車で運ばれて来るものを、職員が盛りつけて配膳をする。ご飯はグループホームで炊いて盛りつけ、職員と利用者が同じテーブルで一緒に食べている。	食事は生活していく上で楽しみのひとつです。買い物、調理は施設の厨房から提供されていますが、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にやる事が大切です。「食」を通じた様々な取り組みを見出し、少しでも工夫して、関わられることを期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量のチェックを欠かさず行い、必要があれば声かけや看護師への相談を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の声掛け、または介助により口腔ケアを行っている。また、必要があれば歯科医の指導を仰いでいる。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを欠かさず行い、必要時には声掛け・介助に努めている。	自立している利用者が多い。排泄チェック表を使用して夜間の排泄の間隔の長い利用者等は時間を見計って失敗のないように声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排泄チェックを行い、それにより水分摂取を促したり、腹部マッサージなどにより改善に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を基本に1回30分として1週間に入浴に要する時間は9時間であることから、できるだけ希望を取り入れている。	一人週2回午前中に実施している。浴槽は個浴であるが、立つことが出来ない時など状態に合わせて中間浴槽を使って入浴を行っている。入浴を拒否された時は、誘うタイミングを計り声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを参考にその都度の状況により支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護職員が毎朝説明し介護職員へ渡し、介護職員が服薬を支援確認している。また、体調変化等、毎朝、介護職員と看護職員が観察している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶の時間には、お茶、コーヒー、紅茶、ポカリスエット、麦茶等希望に応じ提供している。本館で開かれるカラオケ大会にも参加されている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外へは希望を募り一人ひとりには行かないが、小集団で出かけている。外出については、外出レクを企画し、家族も参加を募り実施している。 以下のところへドライブに出かけました。8/17)河口湖・山中湖 9/14)上諏訪 11/18)小瀬スポーツ公園紅葉狩り	外に出たいという時には気分転換に散歩をしている。天気の良い日には、富士山の好きな利用者は、見える場所に連れていくようにしていたが、寒い季節は控えている。	外の空気に触れる機会を多く持つことは気分転換やストレスの発散、五感に刺激を得られるチャンスです。寒い季節なので外に出ないということではなく、寒さを防ぐための工夫を家族の協力を得ながら準備して、積極的に外気に触れる支援を期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金で家族の承諾を得て処理しているが、入居時に所持金ゼロを了承しない利用者については所持金を把握し、時期をみて金庫へ預かることとしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要があれば電話をつないだり、書いた手紙を郵便局へ出している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮している。	居室から出るとホール続きにショートステイの共同空間があるので広く感じる。大型テレビと小型のテレビが置かれているので、チャンネル争いはない配慮がされている。ホールのソファには事業所の膝掛けが置かれて自由に使えるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂については指定してあるが、本人の希望を取り入れたり、状況により席替えを行っている。その他の共用部分については、自由に使用している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、本人と家族それに職員を加え居場所づくりをしている。	タンスや家族の希望で個人的なポータブルトイレ又入居する前に使っていた品々が持ち込まれている。本人が取っている新聞もベットサイドに置かれて日々読んでる事がうかがえる。夫婦で入居しているがそれぞれの部屋にて生活し夫が訪室している利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室については、上記のとおり本人と家族それに職員を加え居場所づくりを行い、共用部分については、食堂(炊事場・配膳・食卓等スペース)、居間(テレビを見たり談話したりするコーナー、体操をしたりするコーナー)を設け、自由に使えるようにしている。			